





# 山とスポーツクライミング情報誌

登山月報 第645号 令和4年12月15日発行 昭和45年12月12日第三種郵便物認可(毎月一回15日発行)





No.645

第5回コンバインドジャパンカップ西条 (CJC2022) 開催	2
令和 4 年度 登山部 指導委員会 登攀技術研修会、A級主任検定員養成講習会、山岳コーチ2養成講習会報告	4
第159回 Mountain World ······	6
令和3年海外登山奨励金(後期)交付登山隊報告	7
令和 4 年度 安全登山指導者研修会 (西部地区) 報告	8
U I A A 総会 カナダ/バンフ (Banff) 報告1	0
福岡県山岳・SC連盟 自然保護委員会のSDG sな活動1	2
JMSCA、表紙のことば、編集後記1	2

# 第5回コンバインドジャパンカップ西条(CJC2022)開催

CJC2022 実行委員長 村岡正己

今回、スポーツクライミング第5回コンバインドジャパンカップは、当初10月開催を計画していたが、盛岡のWCと日程が重なり11月に変更となる。同時にジャパンオープンを開催、海外ルートセッター、選手の参加を計画し、次のように大会開催意義を定めた。

### 大会の Purpose (開催意義)

今大会は、国内のトップ選手に加えて、海外選手及び

ルートセッターチェンジシステムによる海外セッターの 参加を行い、国際交流、ノウハウ、パフォーマンスの向上、 開催地へのスポーツ文化発展への貢献 (サスティナビリ ティ活動)を行う。

開催日:11月12日(予選)-13日(決勝)

会場:愛媛県西条市石鎚クライミングパークSAIJO



男子		<del>- 7,</del>	決勝										
		予選	ボルダー						リード			複合	
			M 1	M2	МЗ	M4	ポイント・	順位	高度	ポイント・	順位	ポイント・	順位
M 011	安楽 宙斗	1	2:2:2/2	0:8:8/9	3:3:3/3	0:0:4/8	63.7	2	39+	80.1	1	143.8	1
M 007	天笠 颯太	5	3:1:1/3	0:3:3/5	0:2:1/4	0:0:2/5	49.4	5	28+	42.1	3	91.5	2
M 002	山口 賢人	7	3:3:1/3	0:7:7/8	0:0:0/6	0:0:2/6	39.1	6	31+	51.1	2	90.2	3
M 006	川又 玲瑛	4	1:1:1:/1	0:2:2/6	7:4:4/7	0:0:0/14	59.3	3	22+	26.1	5	85.4	4
M 004	井上 祐二	2	0:8:3/8	0:3:3:/4	0:12:12/12	0:0:5/6	32.6	7	31+	51.1	2	83.7	5
M 005	楢﨑 明智	8	0:2:2/6	0:3:3:/5	3:2:1/3	0:0:1/8	49.5	4	24+	30.1	4	79.6	6
M 001	土肥 圭太	6	4:3:3/4	3:2:2/3	0:1:1/4	0:1:1/3	69.5	1	12+	8.1	7	77.6	7
M 003	百合草碧皇	3	0:4:2:12	0:1:1/4	0:0:0/11	0:0:0/11	19.7	8	16	14	6	33.7	8





男子決勝には、安楽宙斗、井上祐二、百合草碧皇、川又玲瑛、天笠颯太、土肥圭太、山口賢人、楢崎明智の順で予選を通過した8人が進出。ボルダーでは、土肥が、第2課題を唯一の完登、第3課題は失敗に終わるが、第4課題でも唯一のハイゾーン獲得で69.5ポイントで首位に立った。予選1位の安楽は、土肥と同じ2完登をマークし、6ポイント差で2位となる。

ここで、安楽と土肥の争いになるかかと思われたが、リードで土肥が1ポイントのセクションで足が滑りミス。逆に天笠、山口が3ポイントセクションまで伸ばし追い上げる。その中で、安楽はミスなく進み4ポイントセクションの39+を獲得。優勝を勝ち取る。

女子決勝は森秋彩、谷井菜月、野中 生萌、葛生真白、久米乃ノ華、中川瑠、 倉菜々子、竹内亜衣が進出。ボルダーは 第1課題、第2課題を完登した森と中川の争いとなる。第4課題でハイゾーンを獲得した森が96.7ポイントで1位となる。

リードは、高度30付近のボリュームのムーブの組み立てに戸惑いフォールする選手がでるなか、唯一突破し完登手前の43+まで詰め寄った森が1位。複合トータルで165.8ポイントの高得点で優勝を勝ち取る。

### 【運営】

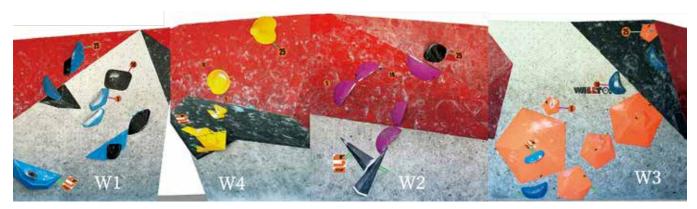
今回の大会は、パリフォーマットの確認として選手、運 営側ともに貴重な大会となった。

⇒ボルダー: 4課題の構成。1課題につきゾーン2カ所設定、1ゾーンにつき5ポイントが加算。完登は25ポイント。

⇒リード:上部の40手をポイントの対象とする方式。10手 ごとに1手あたりの獲得ポイントが1つ増える。(ポイント エリアによってポイント)が異なる。\*詳細は競技規則参照 運営面では、10月の盛岡WC同様、観戦者(会場、WEB) への伝え方に努めた。

OnlineObservationをはじめ競技ルートの説明、Web リザルトの見せ方など。

今大会では、日程の関係で準決勝はなくしましたが、タイムスケジュールは厳しかった。ただ選手にとっては、スピードが無くなった分、ボルダー、リードでの自分の位置の確認とパフォーマンスなど戦略に展開しやすくなったのではと感じた。



女子		予					決別	券					
		予選	ボルダー						リード			複合	
			B1	B2	В3	B4	ポイント・	順位	高度	ポイント・	順位	ポイント・	順位
W 001	森 秋彩	1	2:2:2/2	2:2:1/2	0:2:1/5	0:1:1/3	69.7	1	43+	96.1	1	165.8	1
W 008	中川 瑠	6	4:4:4/4	1:1:1/1	0:4:1/4	0:0:1/3	64.4	2	30+	48.1	2	112.5	2
W 003	野中 生萌	3	2:1:1/2	0:3:1/4	0:1:1/3	0:0:2/4	49.6	3	30+	48.1	2	97.7	3
W 002	倉 菜々子	7	0:4:4/5	0:0:1/3	0:3:1/3	0:0:0/6	24.5	5	26+	36.1	5	60.6	4
W 016	竹内 亜衣	8	0:0:5/6	0:0:1/2	0:0:2/6	0:0:0/8	14.5	8	27	39	4	53.5	5
W 006	久米乃ノ華	5	0:2:2/4	0:0:1/3	0:0:1/6	0:3:3/5	29.7	4	11	7	6	36.7	6
W 011	葛生 真白	4	0:6:2/6	0:1:1/3	0:0:2/6	0:0:0/7	24.4	6	11	7	6	31.4	7
W 004	谷井 菜月	2	0:3:3/4	0:0:1/4	0:0:3/7	0:0:0/6	19.6	7	10+	6.1	8	25.7	8





### 運営データ

[天気]

11月12日 晴れ 17℃-23℃ 11月13日 雨後曇15℃-20℃ [入場 11月12日] 選手43人(男21人、女22人)、コーチ4人 観客104人、VIP9人、メディア7人、 スタッフ145人(計312人) [11月13日] 選手16人(男8人 女8人)、コーチ1人

選手16人(男8人 女8人)、コーチ1人 観客142人, VIP9人、メディア8人、 スタッフ133人(計309人) [クリッピング]

TV4件、Web25件、新聞7件



### 【開催地コメント】

### 副実行委員長 櫛部一洋

スポーツクライミング第5回コンバインドジャパンカッ プ西条(CJC 2022) / JMSCA第1回ボルダー&リー ドジャパンオープン2022がここ西条市において開催され ましたことに心より感謝申し上げます。新型コロナウイル ス感染症と共存しながらの大会となりましたが、感染対策 を徹底し、有観客で西条市民および愛媛県民等が世界で 活躍するトップ選手の登りを目の前で観戦することがで きたことを大変嬉しく思っています。大会期間中は雨も降 りましたが、運営に大きな影響もなく、選手たちは雨にも 負けない熱い戦いを魅せてくれました。本市としても、ス ポーツクライミングがメジャー競技になるように地方から 競技の魅力を発信し、振興に努め、スポーツクライミング の聖地を目指して邁進していく所存ですので今後ともご 指導のほどよろしくお願いいたします。結びに、JMSC Aの今後益々のご発展と選手のご活躍を祈念いたしまし て、感謝の言葉とさせていただきます。

### 【セッターコメント】

### リードチーフルートセッター 岡野 寛

新しいフォーマットはルートセッターにとっても新たな 試みでした。個人的には新しいフォーマットでの3回目の セットになりましたが、おぼろげながら目指す方向性が見 えてきたと思います。今後も選手のパフォーマンスを引き 出しつつ成績も分けられるようなセットを心がけていきた いと思います。

### ボルダーセッター PierreBroyer

I wanted to thank you first for creating this opportunity of an exchange program between our two countries.I was proud to join you for the Combined Japan cup in Saijo , it was a good opportunity to understand a bit more the challenge of a combined event .

I appreciate the condition of work , with 7 setters and 4 days for 4 rounds , the team for boulders headed by Gen Hirashima get a nice environment to create a challenging and interesting round .Will all those setters , it was also a good way for me to getting permeated trough local culture of climbing.

The diversity of the setting team , with an IFSC chief setter , a balance between young setters and experimented ones , and locals and  $\mbox{\ensuremath{\text{\tiny e}}}$  internationals  $\mbox{\ensuremath{\text{\tiny e}}}$  setters was a good sample of Japanese route setting culture.

And I hope that I was able to add a french touch to this competition.

I appreciate the hospitality, and the passion of the setters team . Our culture are really different but everyone make my trip confortable and was ready to share with me .

Also it was nice to be able to exchange ideas and vision about our setting experience with almost every members of the team despite the language barrier.

Of course , we have a different climbing styles and different way of working , but Gen taking care of mixing everything. And I learn a lot from this immersive experience.

I Hope that your national setter will enjoy France as much as I enjoy my Japanese experience.

Please feel free to send me any feedback about my work in Saijo .

A bientôt je l'espère

Merci / ありがとうございました

要約:セッターチェンジシステムによる今大会への参加できたことに感謝。平島ボルダーチーフのもとセッティングチームの多様性(IFSC、若いセッター、経験豊富なセッターなど)を活かし素晴らしいセットができた。また、ホスピタリティと情熱に感謝し多くのことを学んだ。

### 九州地区(鹿児島県) 開催

### 令和4年度 登山部 指導委員会

# 登攀技術研修会、A級主任検定員養成講習会、山岳コーチ2養成講習会報告

### ●令和4年11月5日(土)~6日(日)

鹿児島県において登攀技術研修会およびA級主任検 定員養成講習会、コーチ2養成講習会が 鹿児島県国 立大隅青少年自然の家室内クライミングボードにて開 催された。建物の外は鹿児島湾(錦江湾)が目の前に広 がり、桜島も見える風景優美な場所で休憩の際の癒しと なりました。

今回は研修12名、A級主任検定5名、コーチ21名、講師2名、九州地区スタッフ1名の 計21名での開催となった。

新型コロナウィルスが流行終息は未だ先が見えない中、ワクチン2回以上の証明提出、毎朝、夕の検温記録

を必須とし、感染リスクを極力避けた態勢で開催されま した。

今回は、開催地 鹿児島県、熊本県から若い方も多く 参加いただき、大山での氷雪技術研修会の参加意思も 多く聞こえ、今後の広がりも期待できるところです。九 州地区山岳協会の皆様には、大変お世話になりありがと うございました。今後の開催につきましてもしばらくは このようなスタイルでの開催が続くと思いますがコーチ の全国での養成講習会の開催を期待し、また、登攀技術 の向上も図りたいと思います。

以下に参加者の代表の感想を掲載いたします。

(指導委員会 野村)

### 鹿児島県山岳・スポーツクライミング連盟 児島悠山会 岩本郁夫

ここ2,3年鹿児島県在住の山愛好者による、北アル プス等での遭難事故が数件発生している。

総ての方が会に属さない愛好者であり、山に対する技量がいかほどのものなのか把握できない状況である。 自分に、人に誇れる山の技術はないが、今まで事故なくやってこられたのは、今までの諸先輩方の指導、研修会等への参加による技術の習得のおかげだと思っている。 長く山の会に所属する者として、新しく入会してこられる方々及び会に属さない愛好家の方々に、ものを言える立場になるためには、より一層の技術の習得と資格の取得が必要だと思っていた。

今回、JMSCA主催による登攀技術研修会が鹿児島で開催されることになり、めったにない地元開催でもあることから、所属する山の会の仲間6名を誘い受講することにした。

5名は登攀技術研修、自分ともう一人は養成講習を受講することとなった。

登攀技術研修においては、基本的な事柄を主体に研修がなされ、養成講習はすでに基本は出来ていることが前提の講習であり、人に教えることを主体に講習が進められた。

ロープワーク、制動確保技術、自己脱出技術を一つの流れの中で、場所を変え懸垂下降技術を学ぶことになり、今までやってきたことの復習及び確認の内容ではあったが、誤りではなかったことの再確認ができた。しかし、一つ一つの結びの名称・機能を説明しながらの実施は戸惑うことが多々あった。

今までは人に教えるということをあまり考えず、体が 覚えていることを繰り返しやっていたのだと、この場で 反省することになった。

これから先は、人に教えることを前提に、一つ一つの 動作を確認しながら、なぜこうしなければならないかを

The state of the s

説明できるようにしていきたい。

今回の養成講習会を受け、今まで以上に人に教えることを前提に自己研鑽し、これからの山登り登攀の在り方として、某山岳警備隊の方がモットーとしている『山で死んではいけない。死なせてはいけない。』を自分のモットーとして山仲間に接し、山を楽しみたい。

最後にこの場をお借りして、講師の方、研修に参加された方々、ありがとうございました。 御礼申し上げます。

### 熊本県山岳・スポーツクライミング連盟 あそ望山の会 城戸優香

私がクライミングを始めたのは2018年夏。当時入会していた山岳会で単純に岩場が好きだという事でクライミングを勧められ体験しました。高所に怖さはなく、純粋に楽しいという思いで、たまに機会があれば連れて行ってもらう程度でした。知識も無く、言われた通りに登っていましたが、教わる人によりギアの装着方法等の違いがあり戸惑いました。その後は答えを求め、講習会等参加する機会もありましたが、初心者講習とあっても内容はレベルが高く、プルージックコードの装着や懸垂下降のシステムひとつにしても教える方により様々。クライミング技術は伝承的要素が強く、様々なやり方があるので、その中でどの方法が安全で的確に身に付けていけばいいのか課題が残っていました。自立したクライマーになるのは至難の技です。

今回の講習会は、ブランクがあいていた為システムの再確認や、新たな知識を学べたらと思い参加させて頂きました。ブリッジプルージックやマッシャートレッセ等、新たな方法。自己脱出や救出方法等も学びましたが、このような技術は、いつも使うシステムではない分忘れてしまいがちなので、いざというときに使えるように繰り返し練習を行っていきたいと思います。

1泊2日の講習会でしたが講師の方の熱い思いや、取り組み等を直接お聴きすることが出来ました。これからもこのような講習会があれば参加させて頂きたいと思います。2日間ありがとうございました。



# 第 159 回 Mountain World

### 2022年度のピオレドール賞決まる

池田常道

今年度のピオレドール賞は11月18日~20日、フランスのブリアンソンで授賞式が行われるが、それにさきだって10月中旬、受賞者が発表された。

登攀賞に選ばれたのは以下の2隊である。

まず、ジョージア(旧グルジア)のアルチル・バドリアシュヴィリ、バカール・ゲラシュヴィリ、ギオルギ・テプナーゼのトリオによる東部ヒンズークシュのサラグラール北西峰(7303 m)北西壁。サラグラールは7つの7000 m峰を持つが、北西峰は唯一未踏で残されていたピークだった。ジョージア・トリオは一昨年9月3日から10日に北西壁(2300 m ED2、M5+A3+)を初登攀、ラングータ・エ・バルフィ(6833 m)南壁も登っている(頂上は第3登)。ちなみに、ジョージア隊のピオレドール受賞は初めてだった。

もうひとつには、セアン・ビリャヌエバ・オドリスコル (ベルギー) によるフィッツロイ山群の単独縦走が選ばれた。2014年にトミー・コールドウェルとアレックス・オノルド(米) が北から南へと縦走したフィッツ・トラバースを逆方向に踏破したもので、水平距離 5 km、総獲得標高差 4000 m超を 2 月 5 日から 10 日で完走、ムーンウォーク・トラバース (4000 m+6c) と命名した。

コロナ禍のため2020年初めから山麓のエル・チャルテンに滞在を余儀なくされていたビリャヌエバは、ヨーロッパに帰るのを諦め、滞在中この縦走に挑むことにした。ホールバッグに詰めた荷物は食料10日分と寝袋、テントを合わせて約30kg。ほとんどのピッチをオンサイトした末ゴールに達した。

\*

このほかもうひとつの登攀に審査員特別賞が贈られた。ウクライナのニキータ・バラバノフ、ミハイル・フォーミン、ヴィアチェスラフ・ポレジャイコによるアンナプルナⅢ峰(7555 m)南東稜の完登である。1981年から試みられてきた課題で、セティ・コーラのゴルジュを抜けるアプローチには道もなく、南東稜自体も標高差2500 mと大きく難しいので、これまで挑んだ数少ないチームはルートの半ばで敗退していた。

2019年にも挑んだウクライナ・トリオは、昨年10月 22日から11月6日の19日間を要してついにこのルート から頂上に達した。頂上からは東稜を避けて西側へと下り、東アンナプルナ氷河へ出る未知のルートを下った。こちら側からBCへ帰る手立てはないので4500m地点までへりの出迎えを要請、結局5000m地点まで飛来したへりに収容された。その際、メンバー1人はへりでBC地点を往復して撤収を済ませ、全員その日のうちにカトマンズまで帰ることができた。

\*

しかし、BCへの往復にヘリを利用したことは、緊急 事態とはいえ、登攀行為にあくまでフェアな手段でとす るピオレドール本来の趣旨に反することになるため、今 回は審査員特別賞という形態をとったようだ。

\*

昨年度、山野井泰史が受賞した生涯功労賞はスロヴェ ニアのシルヴォ・カロに与えられた。

17歳のときからクライミングを始め、もっぱらパタゴニアを中心に多くの新ルートを拓いた。ユリアン・アルプスという絶好のトレーニング・グラウンドで鍛えられ、フランチェク・クネズ、ヤネズ・イェグリッチと共に三銃士とたたえられた。

<u>1983年</u> セロ・トーレ東壁悪魔のディエードル(6a A2)を拓く。

1985年 ヤルン・カン北西壁遠征。トモ・チェセン他1 人が登頂するが、自身は8100 mまで。

1986年 セロ・トーレ東壁地獄のダイレクト (7a A4)。 グランド・ジョラス北壁ローリング・ストーンズ第3 登。 ブロード・ピーク登頂。トーレ・エガー南東壁サイコ・ヴァーティカル。 エル・モチョ北壁グレイ・イェロー・アロー。

1987年 ローツェ・シャール南東稜で7300 mまで。セロ・トーレ南壁新ルート

<u>1990年</u> バギラッティⅢ峰西壁、エヴェレスト西稜 7500 mまで。

<u>1993年</u> エル・キャピタン「ワイオミング・シープランチ(5.10 A5)」。

1996年 ナルマソルトック新ルート。ヨセミテでサラテ・ウォール10時間25分、ハーフドーム北西壁11時間20分。

<u>1999年</u> フィッツロイ西壁エンスエニョ。フリー初登。

2002年 セロ・ムラジョン主峰初登頂。

<u>2006年</u> トランゴタワー「イターナル・フレーム」初の ワンデイ登攀。



### 令和3年海外登山奨励金(後期)交付登山隊報告

### ■Giri Giri Boys K7 Expedition 2022

- 期 間:2022年7月15日~8月23日
- 隊 員: 横山勝丘(42)、鳴海玄希(38)
- 山 域:パキスタン・カラコラム チャラクサ谷
- 山 名:K7中央峰(6858m)

# 【連載1】 横山勝丘 K7への再挑戦を決めるまでの経緯

2017年、長門敬明と向かったK7西峰の登攀は、新ルートからの登頂という結果で締め括ることができた。私たちの持っている能力や、それまでの経験を総動員して達成できた会心の登攀だった。その頃、40歳を目前に控えた私の体力は人生で最高潮だという自負があったし、気持ちも前向きで、次から次へと目標が現れた。その高いテンションを維持したまま、2019年初頭、佐藤裕介と共にパタゴニアのフィッツロイ山群に向かった。目指すは未登のフィッツロイ山群縦走(南から北へ七つのピークを一筆書きでクライミングする)。この積年の目標を成功させるために沢山トレーニングを積んだ。経験やノウハウの積み重ねもあった。天候が安定しさえすれば、成功できるとの確信めいたものもあった。

登攀二日目の夕方、三つ目のピークからの懸垂下降中、私のミスによって佐藤が墜落した。その瞬間彼の死を覚悟したが、50mほど墜落した後、途中の岩棚に引っかかった。自らの意志で動くことは不可能で、意識は混濁、会話は一切成立しない。一刻も早い救助が必要だった。翌朝、私は一人で山を降りて救助要請をした。それから三日間にわたる救助活動は困難を極めたが、周辺の山にいた30名程のクライマーたちの献身的な救助活動により、幸いにも佐藤は一命を取り留めた。

この出来事によって、私の山への思いは以前と完全に変わってしまった。あの墜落シーンが頭にこびりついてしまっていて、山を思うと、楽しさよりも先に恐怖心に襲われた。なにより、私自身の行動そのものが信用できなかった。登山やクライミングを止めようとは一切思わなかったが、しばらくはまともに次の遠征を考えられるような状態ではなくなっていた。また、佐藤が復活するタイミングまでは私自身も本気の山を再開する気にはなれなかった。折しも2019年末から世界はコロナ禍一色となり、遠征を考える余裕すらなくなったが、私としてはむしろ好都合だった。こんな状態で無理に山に行く必要など何もなかった。

また一年が過ぎ、2021年を迎えた。なんとなく、大き な山への思いもフッフッと湧き上がってきていた。た



パタゴニア、フィッツロイ山群縦走

だ、未だ山に対する恐怖の方が大きかった。この二年ほど、まともな登山はほとんどやってこなかった。実は、山に行かないもうひとつの大きな理由があった。数年前より、私は両足首の痛みに悩まされていた。パタゴニアでの事故後、山に行く気が起こらないのを良いタイミングと捉え、私は両足首の手術を行なった。手術はうまくいったが、焦った私は術後間もない頃から運動を始めてしまった。それが原因で不調を来たし、術後二年が経とうとしているにもかかわらず、足首の痛みは残り続けた。さらには身体の様々なパーツが経年劣化でガタつき始めた。これに関しては、焦ってもむしろ悪い方向にしか向かないのは明らかだった。

体力や山の勘のようなものは地に落ちていることだろう。だけど、それに関してはあまり気にしないことにした。そのぶん、ロッククライミングのスキルや経験は積んだつもりだ。体力も勘も、再開すればすぐに復活するだろう。

だけど、山への思いと山に対する恐怖、その二つの 力関係は、いつまで経っても恐怖の方が大きかった。 たしかに、あのリアルな墜落の記憶が引き起こす恐怖 心は薄れつつあった(とはいえ、今でも決して消えるこ とはない)。一方で、山に行くことそのものへの恐怖は 増大していった気がする。山に頻繁に通っている頃は、 次に何が起こるのか(それとも起こらないのか)が想像 しやすい。だから不必要に山に行くことを怖がること はないし、自分を取り巻く形勢が不利になっても、冷静 な判断を下せる。

しかし何年も山に行かないままでいると、その辺の さじ加減が狂ってしまい、山に入ることそのものが恐怖 となり得る。そんな思いは、登山を始めてから三十年以 上、まったく持ったことのない類のものだった。自分自 身の年齢や家族の存在など、理由はいくらでもある。そ れ自体は仕方のないことだ。それに、大好きな岩登りだ けしていても十分に楽しい。家の近所で開拓をしている だけで、ちょっぴり冒険気分も味わえる。だけどやっぱり、私は大きな山にトライすることそのものが好きで、まだその未練がたっぷり残っている、それもまた事実だった。

「これはそろそろ早いタイミングで大きな山に行って おかないとマズい」

なるべく早い段階で不必要な恐怖を払拭し、山の感 覚を取り戻しておきたかった。

2021年の最初の段階で、鳴海玄希から一緒にどこか ヒマラヤに行こうという話があった。実際にヒマラヤに 行きたいという思いと、その場の酔っ払った勢いを借り てその年の夏のパキスタン遠征を計画した。結果的には、まだコロナの状況が収まっていないことを理由に計画は頓挫したが、その時は、残念に思う気持ちとホッとしている気持ちが同居していた。

2021年の終わり頃、鳴海と翌年の話をした。恐怖や不安はまだ完全には拭えていなかったけれど、来年の夏にはあの懐かしい世界にどっぷりと浸かっている、そのイメージは鮮明で、ようやくその状況を待ち望む気持ちが自分自身の中に芽生え始めた。よし、頑張ってみるか!事故から三年近く経って、ようやく私は本心からそう思えるようになったのだった。

# 令和4年度 安全登山指導者研修会(西部地区)報告

西部地区の安全登山指導者研修会は、11月18日(金)~20日(日)島根県大田市にある三瓶山及び国立三瓶青少年交流の家を会場に開催されました。コロナ第8波が心配な中、21名の参加者を迎え、講義、実技などの研修と情報交換会が開催されました。

### 【第1日目:11月18日(金)】 開講式・講義1~5

はじめに国立三瓶青少年交流の家尾原所長の挨拶とスタッフからのオリエンテーションが実施されました。開講式では国立登山研修所米山所長、JMSCA小野寺専務理事、島根県山岳連盟松本会長、今回の講義・実技講師担当の北村講師並びに河合講師の挨拶がありました。

### 講義 I 「登山のPDCAサイクル」北村講師

P=plan計画、D=do行動、C=check評価、A=act改善のサイクル、の基本的なサイクル実践が安全登山に大きく影響するとの講義がありました。《・登山客を増やすな、自立した登山者を育てよう。仲間と自分の命を守るために徹底的にプランニングをしよう。・PDCAサイクルを常に回しながら登山をしよう。・自立した登山者(自助)・タフなパーティー(共助)・命を守る安全登山チーム(公助)が目標。》

### 講義Ⅱ 「読図とナビゲーション」(初級・中級)河合講師

道迷い遭難をしないためには、過去の道迷いによる遭難事例に触れることが一番効果的。という河合講師の方針で、特徴的な遭難10事例を紹介して講義が進められました。道迷いの大きな分岐点「あれ!おかしい」での場所の対応が重要だということです。まず、「冷静に」現在地を確認(周りの地形、特徴物の確認等)して、分かるところまで戻ることが基本です。関連で「戻ることを面倒くさがらない」ことも大切で、もし、自信がない場合はGPS、スマホの登山地図等を利用しての現在地確認の補強をしましょう。

開講式





読図と ナビゲーション

### 講義皿 「ルートプランニングの指導」北村講師、河合講師

ルートプランニングはPDCAサイクルのPでもあり、「登山計画書」の中心であり、地形図を丁寧に読み解き、安全面からの問題となる地点、エスケープルート、リスクマネージメントともコラボレーションさせるプランとさせなければなりません。基本的には登山計画書に沿って行動するわけで、実践できる内容に纏めなければなりません。想定外のことがないようにプランニングを纏め、トラブル発生時には冷静に対応できることが最も重要です。なお、GPS、スマホの使用を事前の先読みで活用することも大切です。

### 【第2日目:11月19日(土)】

### 実技研修Ⅰ~Ⅲ 秋晴れの絶好の登山日和

実技研修の実践と実技研修の振り返り、夕食後の情報交換会の1日です。

本日急遽、熊本県チームから申し出があり4人のキャンセルが発生し、実技研修が4班から3班に再編成になりました。

### 実技研修 1 「コンパスの使い方(123)」

### 北村講師、河合講師

当初の開催場所を変更して、青少年交流の家の正面 広場で、「コンパスの使い方の基本」を実施しました。

近年初級者に人気のコンパスの使い方の練習です。 スウェーデンのSILVA社が独自に考案した、目的地 の方角を簡単に見つけられるシステムです(コンパス ワンツースリー)。一般的には足元に目印のプレート等 を置き、三角形に歩いて元に戻る精度を高める練習で す。今回は四角形に歩いて元に戻るものでの実施となり ました。河合講師がデモンストレーションを実施され、 研修生が指導講師に説明を受けながら5~6回の練習 で終了しました。

### 実技研修Ⅱ 「ナビゲーションの実践」

### 北村講師、河合講師、町田登山部長、島根県実技講師

計画では10時スタートでしたが、約15分早く青少年 交流の家を出発しました。今回の三瓶山コースは、人工 物や特徴的な地形が少なく、全34か所のポイントの約 半数は難しいポイントです。研修生トップが出発前に自 分が目指す場所のポイントの特徴を、2~3ケ所全員に 申告してから出発します。その場所に到着したら、申告 した特徴とのマッチングを全員に説明します。その場所 で次の人と交代し、交代した人は、同じように自分の目 指すポイントの特徴を、2~3ケ所全員に申告(先読み) して出発するという繰り返しです。

地元のCLが研修参加者トップの付近後部に位置し ています。ポイントの前後で研修生が間違って判断して もストップをかけず、少し距離が移動し離れた地点で確 認をし、現在地の説明を全員にしてもらいます。

目的のポイント位置の根拠の説明は、最低でも2ケ 所で、できるだけ3ケ所を見つけるようにと、講師から たびたび指摘され、修正されます。出発当初では説明の 内容が具体的でなかった(右へ曲がる→北西に曲がる 等々)のが、研修が進むにつれ、レベルアップできたこ とは本当に感心しました。現在地を確認することこそ地 図読みの要です。丁寧に実践して、身に付けなければな りません。

女三瓶山北面の難読ポイント3ケ所を過ぎ、3基の 電波塔が並ぶ山頂を経由し、大平山で待望の昼休憩を 過ごすことが出来ました。休憩の後は少し分岐まで引き 返し、室の内の噴火口の特別保護区へと下降します。大 平山854mから室の内池684mまでの標高差170mが火 口凹地なのですが、地形図上の780mの等高線から下の 684mの間の等高線には、凹地記号の I が内側に多数つ いています。池の西端に分岐(ポイント)があります。こ

こから北西に約1km進んだ 扇沢(峠)への行程が最後 の登りです。峠の手前の谷 が狭くなった所に難読ポス



トがあり、先頭が何度も立ち止まりながらポイント位置 を特定させられる場所でした。

峠から西向きに延びている涸れ沢の登山道を下り、ポ イント⑩の場所の特定も苦労させられました。中国自然 歩道の分岐地点を通過するとまもなく草原になり、最終 地点の西の原の登山口へ到着しました。ここで、駐車場 に待機していたバスに乗り込み、10分程で出発地の国 立三瓶青少年交流の家に移動しました。

スタートからゴールまでトラブルがなく、熱心に研修 に参加していただけ、本当に良かったです。

### 実技研修皿 「実技研修の振り返り」

### 北村講師、河合講師、町田講師、島根県実技講師

予定を変更し、実技研修Ⅱが終了した直後から実技 研修Ⅲがスタートしました。青少年交流の家の正面広場 で班ごとに、各自の気づき、振り返ったことを纏め各班 の代表が発表し、北村講師に纏めて講評していただきま

情報交換会は、夕食後19時より本館から少し離れた 別館で、開催され多数の参加者で盛りあがり、楽しい有 意義な時間を過ごすことが出来ました。

## 【第3日目:11月20日(日)】研究討議 北村講師、河合講師 「安全登山指導者を目指して」

研修生、北村講師、河合 講師により昨日の実技研 修の振り返りの詳細の講 評から始まりました。テー ブルを班ごとに分け、各班 で《安全登山指導者をめざ して》についてのグループ



グループ討議

討議(指導目的や手段、方法等)を行った後代表者が発 表をして、北村講師、河合講師より、講評をいただきま した。修了証授与、町田登山部長の講評、主管者並びに 次回開催地奈良県関係者の挨拶があり、予定通りの時 間で閉会になりました。

島根県山岳連盟にとっては、難しい研修会開催になる のではと心配しました。幸いにも好天にも恵まれ、事故 もなく研修会を終了することが出来ました。これも偏に 参加者の皆様や関係者各位のご協力の賜物と厚く御礼 申し上げます。本当にありがとうございました。

(島根県山岳連盟指導委員長 米倉得雄)

# UIAA総会 カナダ/バンフ (Banff)報告

今年のUIAA総会はカナダのバンフ(Banff)にて開催された。バンフは、カナダのアルバータ州に属している町である。バンフ国立公園内に存在しており、カナディアン・ロッキー山脈観光の中心地である。夏季の登山、冬季のスキーなどで賑わうリゾート地であり、温泉保養地としても人気が高い。ユネスコの世界遺産にも指定されており、スキーの上級者にはヘリコプターで頂上に行き、そこから滑るなどの楽しみや、初級者にも十分楽しめる様になっている。現在の会長がPeter Muir と言いカナダ出身という事もカナダ開催に関係している。

実は2019年のキプロス依頼3年ぶりの対面開催である。Zoomで参加した人もいる。対面は37か国から100人以上が参加した。ただ、以前は50か国以上の参加であったからそれには及んでいない。世界にはまだコロナの影響が残っているという事だろう。日本からカナダに入国するにはeTAを取得する必要があるが、コロナに関する制限はない。ただ、日本に戻るには条件があり、ワクチン接種証明の提示を求められる。チェックカウンターで確認される。

### 【UIAA総会参加者】 丸誠一郎会長、小野寺斉 【日 時】

10月27日(木) 受付・登録

10月28日(金) カナダ山岳会とガイド協会主催の晩餐会 10月29日(土) 総会

私は27日に到着し、すぐに登録、30日には帰国の途についた。丸会長は私より1日早く到着し、1日遅く帰国した。

この辺りには先住民が暮らしており、後から来た白人と溶け込んでいる。27日は短時間であるが、彼らからの歓迎のセレモニーがあった。受付で彼らを見た時、キプロスから来たパブロスはネパール人だと言っていた。ネパールも体制が変わり、知っている人は来ないと私も思っていたがそれにしても少し違う感じがした。パブロスはわざわざ確認に言って話をし、原住民とわかった。

28日(土)。プログラムには「Mountain Guides ball」となっているが、これは、これはガイドと一緒に過ごすこと(パーティ等)を意味している。カナダ山岳会とガイド協会の主催なので直接的にはUIAAとは関係がない。従ってUIAA関係者も登録が遅れれば参加出来ない。かなり多くの人が参加していたが、コロナ禍で失った過去3年間分の新規にガイドとして承認された人を

表彰風景





晚餐会

紹介、表彰していた。約10名の中に日本人も1名混じっていた。

29日(日)。本日が総会である。1つ1つのAgendaを 拾い上げていくより、トピックを中心に報告する。

大きなトピックは以下の2つであった。

- ①アイスクライミング
- ② Climate Change (気候変動)

さらに各委員会の態勢の変更についての紹介や各委 員長が壇上に上がりディスカッションしていたが、詳細 は省く。

11月に来日予定のSteve Long氏は登山委員会のWG (Working Group) から委員会の委員長になった。

毎年行っている自然保護賞はペルーのプロジェクト の団体が受賞した。南米では初めてである。

事務局長であるベルギーのLB(Lode Becker)は10年 先の将来展望を発表した。発表前に私と隣り合い、何 かクレームを言われるのではないかと緊張していると 言っていた。確かに例年と違いあまり内容のないもの だった。2032年にはIOCと一緒になって事業を、と結 んでいたが、さてどうか。

経理報告はスイスのFJ (Françoise Jaquet) が財政状況を発表した。年間予算は日本円にして1億円程度である。

### ハンドブック

右の写真に示す形での出版が公開された。冬山版の発行は2年後とは言っていたが、もっと遅れるものと思われる。





参加者全員の写真

### アイスクライミング

大分以前から問題に成っていたが、つい最近アイスクライミング委員会は解散して、WGになった。これはMC(Management Committee)の決定である。公にはこれだけであるが、非公式にはアイスクライミング委員会の独立の動きがあったらしい。しかし、IOCのUIAAを見る目は厳しく、競技団体としてはまだ認めていないようだ。オリンピック競技化は8年程度前からの発表があり、少なくとも2030年にはあり得ない。2034年も難しいという見方もある。

### 気候変動

今現在、国連のCOP27がエジプトで皆済されているが、UIAAはずいぶん前から国連と連動してきた。気候変動と言う言葉は日本でも広く知られているところではあるが、地球温暖化やCO<sub>2</sub>削減と相まって環境問題としては捉えても、ヨーロッパ等と比較して相対的に山に関係ある問題として厳しくとらえているという話は聞かない。しかし、氷河のある国では様相が全然違う。写真をご覧頂ければ一目瞭然である。カナダが現状を報告した。写真をご覧

頂きたい。左側は氷河が後退する前、右側は後退後である。結局この小屋は取り壊された。氷河後退により取り残された山小屋、結果的に取り壊された。



### 【感 想】

掲載してよいかどうか迷うところではあるが、久しぶりに対面参加した感想として差し障りのない範囲で書いてみたい。

前会長が夫妻で参加していた。ある参加者は、彼はもう大丈夫になったのかと聞いてきた。確かに彼は二期八年の任期満了で退任し、今のPeter Muir 氏が誕生したのであるが、どうも内部的にはそれほどの評価は得ていないらしい。彼の在任中にCAI(イタリア山岳会)が脱退した、しかし、今年は再加入を果たした。CAIは前

#### 総会風景

会長を批判していた。 私は二人とも親しい が、一方と話をすると 一方が席を外す。EU MA(ヨーロッパ連合)



の会長も参加していた。以前はUIAAとEUMA同じ時期に総会を開いても彼は絶対にUIAAには出席しなかった。

ヨーロッパという地の利もあるのかどうか、前会長はIFSC, ISMFなどの情勢については捉えているようだ。ネパールの態勢も変わった。以前UIAA理事のGulung氏は辞任した形になり、新体制の会長が立候補した。韓国もアジア地区選出の理事が任期満了で退任、若い人を出したが、知名度がなくネパールに敗れた。ネパールも最初ではあるが、根回ししていた節はある。

総じて、既に遠征委員会も無く、登山団体としてかっての勢いはない。国際山岳連盟としての運営の将来プランも以前ほど強くは出されなかった。競技化に押され気味になっている。

しかし、世代交代は徐々にではあるが進んでいると見 受けられる。



# 福岡県山岳・SC連盟 自然保護委員会のSDGsな活動

福岡県山岳・SC連盟では2000年頃より、日本トイレ 協会からの依頼を受け『全国山岳水質および周辺環境調 査』へ参加した。これを機にPACテストや大腸菌検査な どを実施、山の中の水場やトイレに強く関心を持つよう になった。当時、岳連の加盟山岳会が独自でバイオトイ レ設置に向け動き始めていた。2006年、県や市、各山岳 団体や個人の協力で福智山(901m)に建設に至った。福 智山は県内でも人気の山で多くの登山者が訪れるが、誇 れるようなトイレは無かった。多くの登山者がこのトイ レを利用し喜ばれたが、燃料の荷揚げ、清掃作業、会員 の高齢化等により単独での維持が出来なくなったが、県 の協力も得て現在も稼働している。福智山のトイレが完 成間もなく、県内で最も多くの登山者が利用する宝満山 (829 m)でも山小屋の浸潤式のトイレが匂うと問題にな り、果たしてどんなトイレがベストなのかを地元山岳会、 県内の山岳団体、竈門神社、自然保護団体などで構成さ れた『山のトイレ・環境を考える福岡協議会』を設立し、 協議していくこととなり結局、宝満山もバイオトイレに決 まった。2008年完成に至り、このトイレも利用者から喜 ばれたが、地元山岳会中心の維持管理体制で継続は万全 ではなかった。

山のトイレにはいろいろな考え方がある。1. そもそも 山の中にトイレは必要ない。(昔は穴を掘って埋めてい た) 2. 下界と同様に快適なのがいい。3. バイオトイレ が良いんじゃない?4. タンクに溜めてヘリで回収した ら?5. 携帯トイレがあるらしい。等々……。山のトイレ として何がベストなのかは各々山の事情が違うので一概 には言えない。登山口から山頂までの距離、標高、電源や 道路の有無、季節による登山者の増減等々……。九州の 山にも携帯トイレはどうなのか協議会で検討していた矢 先、すでに鹿児島の高千穂峰(1573 m)で運用されてい



署名活動して設置した久住山携帯トイレブース

ることを知り、2018年、協議会でマイクロバスを仕立て 視察させていただくことになった。山頂直下に携帯トイ レ専用ブース、登山口の高千穂河原駐車場の大きなトイ レ脇に回収BOX。管理者に直接お話を伺うことが出来、 その中で考えさせられた話があった。「トイレを汚す方に 対し憤りを感じることがありますか?」の質問に「この山 においでいただけるだけで有難いです。」と。

SDGs17の持続可能な開発目標の6番目に『安全な水とトイレを世界中に』がある。私たちが楽しませてもらっている山、散々楽しませてもらった山の世界は私たち『山ヤ』が中心となってその実現に向けて行動し続けていくしかない。日山協のHPに〝山岳環境、⇒「置き去りにしないで 山のトイレゴミ」について啓発している。各県岳連の方々もこれまで述べられている通り、会員の高齢化や未組織登山者の取り込みなど課題に向き合っておられるが、身近な、しかも志も課題までも近い考えの山の団体や個人とも連携してみることもひとつの方法かも知れない。

(福岡県山岳・スポーツクライミング連盟 自然保護委員長 貞苅 誠)



○**日 時**: 令和4 年 9月8日(木) 14:05 ~ 18:20

○場 所: JSOSビル3F会議室2と Webのハイブリッド会議

○出席者: 丸会長、亀山、小日向、古賀各副会長、小野寺専務理事、村岡、相良、蛭田、濱田、赤尾、町田各常務理事、前田、山本、青山水村(途中退席)、栗田,山口、六角、水島、野村、小竹、笹生、原、小高、望月、丸山、

中橋各理事、中畠、古屋、佐久間各監事 〇欠席者 安井理事

### 1. 開 会

### 2. 丸会長挨拶

先日岩手県にいってきた。地方岳連の皆様の声を聴くことができた。体調を壊さず何とか乗り切ることができた。

一方で為替が140円/ドルを超え、8月に 危惧していた資材費や人件費が高騰する経 済環境となり、経費や収益を厳しく見てい かなくてはならない状況となってきた。本日 もよろしくお願いします。

### 3. 会議成立状況報告

理事数28名中27名出席、監事数3名中3名出席(定款第33条、定足数=15名(1

/ 2 以上))

#### 4. 議長選出

丸会長が議長を務める。(定款第32条)

### 5. 議事録署名人

会長及び監事(定款第34条) ホストは小野寺専務理事が務める。

#### 6. 議 題(注. 審議順に記載)

### 議案第1号 議事録の承認について

令和4年度第6回理事会議事録の承認に ついて(事前送付済)

異議なく承認された。

### 議案第2号 2023年八王子WC開催について 古屋監事が配布済資料を基に監事の意見

百屋監事が配布済資料を基に監事の意見書を説明した。 当意見書に対する対策、回答は、年内の予

- 算委員会立ち上げの前に提示してほしい 旨の説明があった。
- 中畠監事が、次の3点の問題点を追加した。
- 1.3人の監事が誰も当常務理事会に参加していない。
- 2. 小日向副会長がサインをしたが有効だったのか。
- 3. 最新の予算、収支見通しによる開催判断ではないのではないか。
  - 丸会長、村岡部長からの経緯の補足説明 昨年12月:プレアグリーメント(PA)の 内容を精査。
- 2月:アジャストメントとして、日本側の放映権の売り上げについては、JMSCAとし、他の世界分はIFSCにという内容で提出した。放映権はOut of Questionという返事だった。
- 3月中旬:八王子で行うといくらか 125円 /ドル換算で試算した。その結果、マイナ ス数千万円となることが判明した。
- <u>5月21日</u>:日本の放映権はあきらめ、5/25 に変更版を送付した。
- 一大会取りやめの5万ユーロのペナル ティーについて、IFSC/JMSCA2 協会で負担と申し入れている。
- -支出予想は、6900万円で、負担を互いに 分担して欲しい。
- -さらに、IFSC負担金は、50-60日前に 振り込んで欲しい。
- -人件費の高騰分は前向きに検討。
- -賞金2百万円はIFSCで負担してほしい。
- ーチケット代は、800万円を超えた分の収益は、IFSCに支払う。
- -3つのNoteをつけた(IFSCの合意は 取り付けていないが)
- NYダウが26,000ポイントを割れた場合
- 日経平均が 22,000 ポイントを割れた場合
- 140円/ドルを超えた円安
  - いずれかの事象が発生したら、すべて見直し。5月末に上記内容を送付。IFの担当者から検討する旨の返事はあった。
  - その後、IFとJMSCAで技術的な質疑はあったが、PA自体の交渉進展はなかった。8月11日に、村岡部長がIFからのメール着信の確認をした。その後状況の確認を行い、IFから6か国の枠があるが、既に6か国の枠が埋まってしまっていて、6か国ともPAに合意している。
- 8月18日:賞金2百万円はIFSCが負担するが、資材の高騰による費用負担は、JMSCAで持ち、それ以外はオリジナルのPA通りとの連絡あり。8月20日までに返事がなければ、日本を除外すると連絡があった。
- 8月20日: 回答締め切りは突然きたもので、 8月21日に常務理事会を招集することと なった。
- 8月21日: 常務理事会を開催し、自分(会長)以外全員開催に賛成した。
  - 以上が全体の経緯で、IFSCとの交渉では、論理的手続きで対応いただけなかった状況だった。
- 小日向副会長より補足説明
  - 専務理事に、常務理事会で以下の3つの 選択肢がある旨の説明をした。
- A. 常務理事会として、カレンダーの6つ目の国に入れてもらう(他の国を落として代

- わりに6番目として日本を入れる)ために 小日向副会長が、実質サインをしたことを 認める。
- B. 認めない(交渉継続)
- C. 開催申請取り下げ。

### 質疑応答

- (質問) 今はどういう状況か、どういう可能性が残っているのか。国内大会をやめる場合には、どういう予算になるのか提示してほしい。
- (質問) 8月18日に博報堂DYとSC部長、SC強化委員長が国際大会の開催がスポンサー販売において有利であることが話されたが、どういう経緯か。
- (回答) 来年の同時期にどういうスポンサー体系が可能かを協議し、丸会長に情報提供されている。
- (質問) IFSC小日向副会長に対応を依頼 した内容は何か。
- (回答) 村岡部長が返答の延期を依頼できないかの確認をした。PAを出さないと八王子が外されてしまうのではないかという判断を小日向副会長と村岡部長で行った。その後、会長に伝えた。
- (質問) この段階でPAを提出したのか。
- (回答)副会長がサインしてよいのかどうか、 村岡部長と確認したほうが良いと判断し 電話会議をした。SC予算の8-9割を村 岡部長管理で、赤字になると影響がでる ので事前に相談した。口頭で、日本がサイ ンをするから、必ず6か国の中に入れてく れとIFに伝えた。キャンセルの時、10万 ユーロのペナルティーが発生するところ までは考慮していなかった。カレンダー に載せることが最優先と考えた。
- (コメント) 重要な案件 (財産の処分) については、理事会が決めるということになっている。常務理事会での決議だけでは法律上イリーガルである。
- (質問) S C全体で3億円で2億5000万円を 管理しているのは村岡部長とのことだ が、今後どう予算化していくのか。
- (回答)従来は別枠で管理していた。補助金 について国内大会で800-900万円も らっているが、より大きい大会
- (世界大会は2000万円)の補助金の方が金額が大きいので、対象大会の検討をしている。国内のスポンサーも探している。内部留保を考えずにまず、予算作成することをまず考えている。
- (コメント) 大会の優先順位づけは、難しいところで、予算についても第三者として検証していきたい。予算に関して、検証が必要。
- (質問)予算について、SCの理事の皆さん の合意はとれているのか。
- (回答)関係者の合意はまだ完全にとってい ないが、関係者には伝達している。
- (コメント) 支出は、125円/ドルで7,000万円と見ている。スポーツに対しての環境は厳しい。赤字の場合には、国内大会のいくつかをやめるという事前取り決めが必要とあるが、2023年の営業活動を行っている(10-12月)中で、そういうことを伝えるのは厳しい。ワールドカップをやるなら、収入(特にスポンサー)を増やすことが最優先と思う。

- (質問)開催(赤字覚悟のうえ)するのか、キャンセルして10万ユーロ(1450万円)を支払い、財務で吸収できるのか。
- (質問)正式承認を得ていないが、特定資産から1450万円を支払うという方法はとれるか
- (回答)前回のワールドカップでも、協議事項として挙がったが、混乱するので、今は何とも言えない。
- (質問)予想赤字はいくらなのか。540万円の 赤字なのか。それを工面する手段があれ ば、大会開催できるということか。
- (回答)精査できていないので、答えられない。 (質問) P A に副会長がサインすることの意味は何か。
- (回答)口頭で、日本はPAにサインするから、カレンダーの6つに必ず入れてほしい(一つを落として代わりに日本が入る)と伝えた。カレンダーの枠を確保しなければ、交渉すらできない。枠の確保は八王子開催をOKとするという意味。常務理事会の後(8月21日)、電子サインをしてIFの事務局に送付した。
- (質問) P A では、キャンセル料金 100,000 ユーロとのことだが、E O H (Event Organizer Handbook) ではどうなってい るか。
- (回答) 今回、まだ、the Event Organiser Handbookに調印前なので、5万ユーロ である。
- Before the signature of the Event Organiser Handbook: 50,000 €
- —After the signature of the Event Organiser Handbook: 100,000 €
- (質問) S C の会議のなかで、安井理事から 今の国内大会だけでは、注目度が小さい。 国際大会を開催し、日本人選手が活躍す るところを見せることが重要という意見 がでているが、その部分が今日の協議の 中で見落とされているのではないか。
- (回答)常務理事会、小野寺専務理事の議事録にも上記内容は掲載済。しかし、丸会長の意向(国内大会はやめない)とは異なる形で、常務理事会は決まった。

### 本日の対応について

今回いろいろな意見が出されたが、採決は見送りたいと提案がされた。今回は状況説明にとどめ、次回決議ということでよいか。また、臨時理事会の開催はどうかという考えも提示されたが、適切な日が決まらなかった。そこで、次回理事会である10月13日(木)に、SCと財務委員会で予算収支の数字を取りまとめた上で審議する。併せて、国内大会で取りやめるなら、どの大会をやめるのかなどを、用意したうえで決議するという方向性が出された。次回理事会(10月13日)において資料を整備して、審議、採決することについての決議を取り、以下のように承認された。反対ゼロ、棄権1名(小日向)、賛成26名

次回へ続く

#### 8月号より開始! かすみちゃんのハイキング日記」









## 表紙のことば

エベレスト南西壁の冬季初登攀を目指し て挑んだ第1回目は、12月1日から2月9日 まで71日間粘ったが、8,350mから先へ延ば せなかった。高度の壁に弾き返された。

そこで第2回の再戦では、隊員を8,000m バージョンに仕上げて、一気呵成に登る計 画にした。秋に世界第6位の高峰チョー・オ ユー (8,201m) で高度順応登山をして、冬本 番に臨んだ。このプレ登山は、功を奏し、登 山開始から17日間でアタック態勢が整った。

南西壁のロック・バンドの上から遙か彼 方に懐かしいチョー・オユー(写真中央) が望まれた。

(写真撮影 尾形好雄)

# 編集後記

2022年も最後の12月になりました。2020年 より発生したコロナ渦の影響は大きく生活を 一変させいまだに集合場所ではマスクです。

オートキャンプ場は、予約が取れないくら い大人気で、自然の中、子供も大人もマスク 無しで隣のテントとは一定の距離を置いて 楽しそうです。登山も手軽な日帰りハイキン グが人気です。週末になると電車の中はマス ク、登山口よりマスクを外して歩き始めます。 これが普通ですよね。

コロナ渦の前は当たり前だったことが、う れしく思えます。結局は、普通のことが普通 にできることが良いんですね。これがなかな かわからないものです。 (蛭田伸一)

### 登山月報 第645号

110円(送料別) 定価 予約年間 1,300円(送料共)

昭和 45 年 12 月 12 日 第三種郵便物認可

(毎月1回15日発行)

令和4年12月15日 発行日

東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 発行者 Japan Sport Olympic Square 807

公益社団法人

日本山岳・スポーツクライミング協会

電 話 03-5843-1631 FAX 03-5843-1635



〒141-0031 品川区西五反田6-3-23-205 **☎**03-3492-0355 FAX 03-6451-3767

「山岳雑誌」山と人、時代をつなぐ





★モンベルのウェブサイト、全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格 990円(税込)

# 年間購読がおすすめです

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常価格12冊

年間購読なら12冊

岳人 U.L. ショルダ・ バッグ 軽量で丈夫な生地を使用。 デザイン 登山中のサブバッグに!

カード

全国2,000カ所以上で ご優待!



全国の温泉や山小屋など提携施設で さまざまなご優待が受けられるカードです。

年間購読のお申し込みはこちらから! >>>

https://www.gakujin.jp/



お問い合わせ モンベルポスト

(全) 0120-982-682/TEL 06-6538-5797 ※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

# SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組みます



# SUSTAINABLE GALS























# 持続可能な地球環境

関連する主なSDGs ·再生可能



普及支援 自然災害リスク モデルにもとづく コンサルティング

### 安心して暮らせる社会

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な



・健康づくりの支援 ・先進技術を活用 した利便性の高い お客さま対応

## 活力のある経済活動



主な取組 ・次世代モビリティ 社会への対応 (自動運転車等)

・災害に強いまち づくりの支援

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会※をめざします。

SDGs (Sustainable Development Goals)とは -

社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

※外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会



















# 日山協 山岳共済会 〒170-0013東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日~金曜日 10:00~17:00(祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。 https://sangakukyousai.jp





WEBからもお申込みいただけます